

# 平成30年度皇學館おかげキャンパスプロジェクト報告書

教員名：田井健治・櫻井治男


分野：歴史・伝統文化・異文化、子ども・子育て・教育・生涯・健康・福祉、地域づくり・公共・環境、人材育成等の活動、連携協定に基づく事業（ ）、その他（ ）

項目名	内 容
計画名	『伊勢志摩百物語～渚・港を歩き憩う～』編集・刊行
実施期間	平成30年 5月 21日（月） ～ 平成 31年 2月 28日（木）
活動の目的と計画	学生が中心となり、伊勢志摩地域の名所・旧跡・文化資産・自然資産を取り上げ、その魅力を明らかにし、広く発信することを目的とする。これまでその成果を2冊の冊子にまとめてきたが、本年度はその後続編として、当該地域の巨樹・奇木・銘木とされるものを取り上げ、それらにまつわる歴史や物語を調べることで、学生の調査研究能力を高めるとともに、原稿の執筆・編集体験を通して、社会へ出てからも、そうした面での力量が発揮されることを期待する。また、対象となる木々について、本学が提携する伊勢志摩地域の自治体の企画・観光・文化財関係等の各部署の協力を得て情報を収集し、成果を地域へ還元することで、学生が本学の役割を自覚する機会となることを目指す。新たなメンバーを加えて実施にあたる。
活動内容 と 実績・成果	<p><b>活動内容</b></p> <p>本年度の主な活動内容は次の通りである。</p> <p>①勉強会の開催 図書館のラーニングコモンズ、神道学科研究室を利用し、数回の勉強会と編集会議を開催。本学連携自治体より寄せられた情報並びに学生が独自に調べ関心を持った浜・港について調査研究の絞り込みを行ない、それぞれ資料収集などを実施した。</p> <p>②現地調査と地域探訪 平成30年9月1日、10月20日・30日に近隣ヶ所毎のメンバーで合同調査実施（伊勢市・南伊勢町・鳥羽市・志摩市）。各人の担当箇所については随時個別調査を実施。</p> <p>③小冊子の編集刊行と配布 神道学科2年生が編集委員長をつとめ、予定通り冊子を刊行し、寄贈・配布を随時進めた。</p> <p><b>実績・成果</b></p> <p>①成果品 『伊勢志摩百物語～渚・港を歩き憩う～』（平成30年3月25日）1500部刊行。</p> <p>②今回のプロジェクトを進めるにあたり、参加者を募ったところ新たに1年生2名、2年生1名・大学院生1名の参加があり、学外での調査等を通じてこれまで知らなかった伊勢志摩地域の歴史・文化の魅力発見につながった。</p> <p>③本学が進めている「地（知）の拠点整備事情（大学COC事業）」において連携している3市5町の協力により諸情報を得られたこと。またその情報を冊子という形で地域に還元できた。</p>
参加者	田井健治（文学部神道学科助手）・櫻井治男（大学院特別教授）・千種清美（本学非常勤講師）、大学生 6名、 大学院生 4名
今後の活動	未定
記録	  

# 平成30年度皇學館おかげキャンパスプロジェクト報告書

教員名：岡野 裕行

分野：①こども・子育て・教育・生涯、②人材育成等の活動、③連携協定に基づく事業（三重県教育委員会／菟野町図書館）

項目名	内 容
計画名	図書館を楽しく活用する方法をみんなで見つけ合って育てるプロジェクト
実施期間	平成30年8月1日（水）～平成31年1月31日（木）
活動の目的と計画	<p>■活動の目的</p> <p>①本学「ふみくら倶楽部」の学生たちが、読書振興活動に興味を持つ小中学生や読書ボランティアとともに意見交換をしながら、読書や図書館への関心を高める取り組みについて検討し、そこで出てきたアイデアを実践することで、図書館を通じた地域活動への関心を参加者全員で相互に高め合う。②図書館での本との出会い方を考え、公共図書館や学校図書館の可能性について参加者全員で探り合う。</p> <p>■活動の計画</p> <p>以下の二つのワークショップを行うことにより、図書館活用のアイデアと実践を行う。</p> <p>①検討ワークショップ：本学「ふみくら倶楽部」の学生たちが、子どもたちや読書ボランティアとともに、図書館で実践可能な読書推進のアイデアを一緒に考える。子どもたちが考える取り組みが実現化できるように、本学学生や読書ボランティアがアドバイスをしながら、ともに考え合うようなワークショップを実施する。</p> <p>②実践ワークショップ：検討ワークショップで出されたアイデアのうち、いくつかを実際に公共図書館や学校図書館で実施し、その効果についての検証を行う。</p>
活動内容 と 実績・成果	<p>■活動内容</p> <p>■企画内容の見直し</p> <p>当初は、①検討と②実践の2回のワークショップを二日間に分けて実施する計画だったが、会場の駐車場が使用できなかった事情から、①検討ワークショップの実施を予定していた9月22日（土）に参加者が集まらず、事前に計画した通りに開催することができなかった。連携協定先である三重県教育委員会と再度日程を調整したところ、11月25日（日）のみしか都合をつけることができない状況になってしまった。そのため、二日間を想定していたワークショップを合わせる形で、一日のなかですべてのプログラムを実施できるように企画内容を見直した。</p> <p>■イベントの準備</p> <p>①子どもたちとのワークショップを円滑に進めるため、あらかじめメンバー間で図書館活用の案をまとめた。</p> <p>②ワークショップに必要な資材を見積もり、必要に応じて買い出しを行った。</p> <p>③子供たちにお手本として示すための「本の舞台」を、ふみくら倶楽部のメンバー全員が各自で制作した。</p> <p>■イベント当日の流れ</p> <p>菟野町図書館にワークショップ会場をご提供をいただき、菟野町図書館の子ども司書と読書ボランティアを参加者として、11月25日（日）に実施した。午前の部では、ビブリオバトルの実施とグループに分かれて図書館活用のアイデアを、「ふみくら倶楽部」のメンバーを含めてみんなで考えあった。午後の部では、魅力的な本の展示方法としての「本の舞台づくり」のワークショップを行い、参加した子ども司書全員の作品を発表しあった。</p> <p>■実績・成果</p> <p>本プロジェクトにより、次の3点の成果が得られた。</p> <p>①参加した子どもたちの読書振興活動への関心を高めたこと。</p> <p>②参加した「ふみくら倶楽部」の学生たちが子どもたちとともに図書館の可能性についての学びを得たこと。</p> <p>③会場となった菟野町図書館において新規の児童サービスを展開したこと。</p> <p>なお、本プロジェクトについては、連携協定先の三重県教育委員会のウェブサイトでも報告された。 (<a href="http://www.pref.mie.lg.jp/SHABUN/HP/000223493.htm">http://www.pref.mie.lg.jp/SHABUN/HP/000223493.htm</a>)</p>
参加者	岡野裕行（国文学科准教授）、井上真美（附属図書館）、大学生6名（当日ワークショップに参加した人数） ※スケジュールの都合で当日に不参加のメンバーは、「本の舞台づくり」の作品提供者として事前準備に参加した。
今後の活動	三重県教育委員会の新規事業としても高い評価を得ており、継続的な実施協力を要請されたため、ワークショップの会場として別の自治体の図書館も視野に含めながら、次年度以降も継続的に実施したい。
記録	

## 平成30年度皇學館おかげキャンパスプロジェクト報告書

教員名：岡野 裕行

分 野：①地域づくり・公共・環境。②連携協定に基づく事業（多気町教育委員会／多気町立勢和図書館／合同会社ピリリ）

項目名	内 容
計画名	勢和の空の下で本を持ち寄り語り合うBOOKピクニックを開催プロジェクト
実施期間	平成30年7月1日（日） ～ 平成31年1月31日（金）
活動の目的と計画	<p>■活動の目的 “本”を通じて、「本と人」「本と地域」「人と人」がつながるきっかけを創出する。</p> <p>■活動の計画 ①多気町の町内外（三重県内）の個人経営の本屋・古本屋・ブックカフェをはじめ、勢和図書館も含め、広場に“本”にまつわるブース出店を募る。 ②滞在時間を長く楽しんでもらうために、多気町内店舗を中心に、飲食店ブースの出店も募る。 ③イベント告知・出店計画・当日のイベント実施については、現地の様子を把握されている「少女まんが館TAKI 1735」および「多気町立勢和図書館」と連携しながら進めていく。 ④企画や当日の運営については、本学附属図書館管サポーター「ふみくら倶楽部」が関わることで、昨今の大学図書館業界でも注目されている学外での学生協働の取り組みを進めていく。 ⑤イベントの終了後は活動報告書を作成し、記録用・PR用として、他大学やまちの図書館などに配布する。</p>
活動内容 と 実績・成果	<p><b>活動内容</b></p> <p>①イベント開催日時・開催場所の確定および会場の下見を行った。 開催日時：9月30日（日）11:00～16:00 開催場所：多気町富施設ふれあいの森「勢山荘」（多気町丹生） ②本プロジェクトの実施にあたっては、「少女まんが館TAKI 1735」（合同会社ピリリ）および「多気町立勢和図書館」と企画・運営を協力しあった。 「少女まんが館TAKI 1735」公式ウェブサイト <a href="https://www.facebook.com/jomakantaki1735/">https://www.facebook.com/jomakantaki1735/</a> ③イベント当日は多数の出店者に混ざり、「ふみくら倶楽部」による展示コーナーも設けることになったため、事前にメンバー同士で展示のための選書や飾りつけの準備を行った。 ④イベント当日は、主に来場者に対する会場案内スタッフとしての役割のほか、来場者に対してビブリオバトルを披露するなど、本に関する話題が会場内のあちこちで飛び交うようにサポートを行った。 ⑤イベント当日はあいにくの雨模様となったため、会場設営の一部を見直すなど、柔軟な対応を行った。</p> <p><b>実績・成果</b></p> <p>■実績・成果 本プロジェクトにより、次の4点の成果が得られた。 ①“本”というキーワードで、さまざまな人たちがつながり合うきっかけをつくり出すことができた。 ②三重県内の“本”にかかわる事業者の存在を、多数の来場者に伝えることができた。 ③会場となったふれあいの森「勢山荘」という空間に、新しい利用方法を提案することができた。 ④大学図書館から始まった学生団体としての活動の幅を広げつつ、その取り組みへの注目を学外にも発信することができた。</p> <p>■さらなる展開 本プロジェクトは図書館・新刊書店・古本屋・ブックカフェなど、“本”にかかわるお仕事をされているさまざまな人たちが会場に集まり、さらには大学生がその企画・運営に関わる地域連携のイベントとして実施した。このような業界横断的な連携協力による“本”のイベントは、全国的にも珍しい事例となった。今回が初めての開催となったプロジェクトだが、イベントの趣旨に高い評価を得られたことで注目され、平成31年度「第105回全国図書館大会」（三重県初開催）のシンポジウムのテーマにも選ばれ、事例報告と今後の展望を語る機会が求められることになった。</p>
参加者	岡野裕行（国文学科 准教授）、大学生 7名 ※スケジュールの都合で当日に不参加のメンバーは、本の展示などの事前準備に参加した。
今後の活動	来場者からは、継続的なイベント開催を希望する声が多数寄せられた。本年度はスタートアップであったがゆえに反省点も多かったが、修正できるところを見直ししながら、次年度以降も継続的に取り組んでいきたい。
記録	